

こんな時代だからこそ、人との関りの大切さを！（園長つぶやき）

夏の暑さがまだまだ続くこの季節。8月8日の立秋が過ぎ、暦の上ではもう秋となっていますが、ここ最近では10月頃まで暑さが続いているような気が個人的にはしています。今年の夏は、新型コロナウイルス感染症と、熱中症と同時に気をつけながら、子どもたちはもちろんのこと、職員も気を配りながら毎日過ごしています。



さて上の写真は、かぜ組の1歳児が仕切りを使って“いないいないばあ”と遊んでいる様子です。顔と顔、目と目が合った時の表情が本当に何とも言えない良い表情になっています。もう一つの写真は、0歳児の子ども達。同じように仕切りを使って、見える隙間から顔を合わせて遊んでいます。この“いないいないばあ”、実は子どもの成長に大きな影響を与えます。特に、脳の発達へ大きな役割を果たし、“記憶する力” “予測する力” “期待する力” “などに影響を与えるようです。



これまでの日常でも、当たり前に見られていた場面ですが、コロナ禍の中で生活している今の状況と照らすと、どうしても間にある仕切りが、ウイルス感染予防のためにあるように見えてしまいます。もちろん、その為に作られている物ではなく、子どもが楽しく遊ぶための物としてあるわけです。写真を見れば子どもたちが楽しんでいる様子は分かると思います。ソーシャルディスタンスや三密を避ける等、感染予防の観点で考えると、すべき対応も多く、工夫も必要ではありますが、逆にこんな時代だからこそ、人との関り、温もり、寄り添い等々、人が人と接することで生まれる大切なものが何か振り返り、今できることに最大限取り組めるよう努力しなければと、写真を見ながら改めて考えるところでした。（R2・8・12）